

■(鹿苑院)足利義満 室町幕府3代将軍。南北朝合一を実現して専制体制を確立、文化面でも傑出した指導力を発揮した。

あしかがよしみつ
足利尊氏没・1358＝

石清水八幡宮の検校善法寺通清の女の紀良子を母に、_2代将軍足利義詮の長子に生まれる。

・ ・ ・ ・ ・ 1361＝ 3歳：幕府の執事細川清氏が離反して南朝に投じ、南朝軍とともに京都を急襲すると、将軍義詮は近江に走り、義満は建仁寺に隠れたのち、播磨に逃れて守護赤松則祐の庇護を受けた。

細川頼之管領1367＝ 9歳：父義詮が四国の大守護細川頼之を迎えて管領とし、義満を託して病没。ここに義満は足利の家督を継ぎ、
足利義満将軍1368＝10歳：_元服して征夷大将軍の宣下を受けたが、幕政はなお管領頼之の主宰にゆだねた。

応安新式・ ・ 1372＝14歳：義満みずから政務を見るようになる。これより朝官しきりに進められる。

高麗倭寇激化1376＝18歳：

室町御所始・ 1378＝20歳：_京都の北小路室町の地に壮麗な新邸を造営して、ここに移り、後円融天皇の行幸を仰いで新邸の善美を内外に誇示した。新邸は四季の花木や諸家から召し上げた名木で飾られて花御所とよばれ、義満は室町殿とよばれた。政権の呼称としての室町幕府の名はここに由来する。

義満親政始・ 1379＝21歳：*政変で頼之が追放されると、自ら実権を掌握、将軍と管領の権限区分を確定、管領制度を安定させ、二条良基の進言で摂関家にならない、家司制度の整備を進め、公家諸家を武家の家礼として行く。義満は公武を統一する支配者の道を歩みはじめる。

・ ・ ・ ・ ・ 1380＝22歳：

従一位。
了俊九州支配1381＝23歳：父祖の例を超えて内大臣。

義満全権掌握1382＝24歳：ついで左大臣・院別当となる。*良基を摂政に、自らは内覧となって、全権を掌握。

義満准三后・ 1383＝25歳：藤原光増「北野天神縁起絵巻」制作させたか。源氏の長者となり、武家で初めての准三宮を与えられた。_まず、父祖2代にわたって進められた王朝・本所権力を幕府に吸収する作業の総仕上げをめざし、

・ ・ ・ ・ ・ 1384＝26歳：_この年以降、幕府の侍所が洛中所領裁判における判決の執行を担当し、

・ ・ ・ ・ ・ 1385＝27歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1387＝29歳：官を辞し各地へ旅行、_強化した守護の整理に着手。伊勢・尾張・美濃3国の守護土岐頼康が没すると、

周信+良基没 1388＝30歳：「目連尊者絵」が完成すると、

応永の乱・ ・ 1399＝31歳：「融通念仏縁起絵巻」を制作して全国配布させるという壮大な絵巻プロジェクトを立ち上げる。

土岐氏の乱・ 1390＝32歳：_同氏の内紛に乗じて頼康の嗣子康行を討ち、伊勢・尾張を没収(土岐氏の乱)、ついで山陰の大守護山名氏の勢力削減を策して、同氏の一族氏清・満幸を弾圧。

明徳の乱・ ・ 1391＝33歳：_氏清らが兵を起こすのを待って、これを京郊内野に滅ぼし(明徳の乱)、

南北朝合一・ 1392＝34歳：後醍醐天皇以来4代にわたって吉野の山の中に皇位の正統を唱えて、北朝＝幕府に抵抗しつづけてきた南朝に和平の申入れを行った。南帝後龜山天皇は讓国の儀をもって神器を北朝の後小松天皇に渡す、今後皇位は大覚寺統(南朝)・持明院統(北朝)交互とするなどの条件が義満側から示され、後龜山はこれをいれて帰京し、神器は後小松に渡された。*57年に及んだ南北朝分裂の歴史はここにその幕をとじた。

・ ・ ・ ・ ・ 1393＝35歳：洛中の土倉・酒屋等の金融業者に対する社寺・貴族の私的支配を排除して、幕府の課税権を確立するなど、京都市政権吸収工作が進展。後円融上皇が死去すると、自ら上皇相当の位置から政務を処置。

義満太政大臣1394＝36歳：_将軍職を長子義持に譲って太政大臣に昇り、

今川了俊召還1395＝37歳：_出家して道有(のち道義)と号し、依然として政務を見た。今川貞世(了俊)が、やがて周防・長門の守護で北九州に進出した大内義弘と覇を競い、ことに朝鮮との通交貿易の窓口として探題独自の権力の樹立を目ざすと見るや、にわかに貞世の探題職を罷免し、さらに、大内義弘が今川の失脚後いっそう朝鮮との関係を深めて九州探題をしのぐ大勢力となったばかりか、明徳に滅びた山名に代わって和泉・紀伊の守護職も併せて中央政治への影響力を確保する段階に達すると、

金閣寺・ ・ ・ 1397＝39歳：_洛北の北山に3層金箔の舍利殿(金閣)以下多数の殿舎より成る北山第を造営して、ここを政庁に兼ねて公武貴族社交の場とした(鹿苑寺)。

応永の乱・ ・ 1399＝41歳：_義弘を和泉の堺城に討って、大内氏の伸張に強い一撃を加え(応永の乱)、

・ ・ ・ ・ ・ 1400＝42歳：_天皇に匹敵する権威を示すべく、絵合せの一大イベントを開催。陰陽師安倍家に、「泰山府君祭」をして貰って、大金ほか豪華な品々を献上、これを機に、安倍家は天文曆学の土御門家となり、全国支配に至る。

遣明船始・ ・ 1401＝43歳：_天下統一事業の仕上げとして日明通交を開始。

・ ・ ・ ・ ・ 1403＝45歳：

日明貿易成立1404＝46歳：_数次にわたる日明国使の往復の末、明帝は義満を日本国王と認めて、曆と印を与え、義満はこれを受けて明の正朔を奉ずる冊封関係およびこの関係を前提とする日明公貿易(勘合貿易)の制度が成立させ、

足利義満没・ 1408＝50歳：_後小松天皇の北山第行幸というクライマックスを迎えた直後、没した。

義満はまた禅宗寺院統制のために五山制度を整備し(五山・十刹・諸山)、義堂周信、春屋妙葩らの禅僧を重用したほか、自身和歌、連歌、楽、書に秀で、猿楽を好んで世阿弥を愛し、中国渡来の文物を愛玩するなど、文化の面でも傑出した指導者であった。